

将来に立ち向かうために過去に取られた方法

将来の課題に立ち向かう準備として過去の教訓を振り返ることには大切な意味があります。

十二使徒定員会

L・トム・ペリー長老

今年の夏、ユタ州マンタイで開かれたモルモン・ミラクル・ページェントに妻とともに参加する特権にあずかりました。ページェントが上演される前のある晩、わたしたちは出演者を前に話をすることになりました。非常に大人数だったため、集会は2回に分けられました。800人を超す出演者のうち570人は18歳未満でした。前回よりも全体で100人増えたため、衣装作りを担当した姉妹たちには負担をかけましたが、間に合わせてくれました。隅々まで心の行き届いた準備に感動しました。

舞台はマンタイ神殿の下に広がる美しい丘の斜面に設けられました。わたしたちが見物した晩は1万5,000人の観客が詰めかけました。大勢の若い男女が回復の物語を理解し、熱意を込めて心から役を演じる光景はすばらしいものでした。

マンタイを訪れると、わたしは妻と一緒に神殿のセッションに参加するのが楽しみです。初期の開拓者の偉大な犠牲によって建てられたこれらの古い神殿には特別な御霊を感じます。

マンタイ神殿でセッションに参加したとき、胸に込み上げてくるものを感じました。改築し近代化する以前のユタ州ローガン神殿の大切な思い出がよみがえったからです。セッションが進むにつれ、どの部屋でも初期の開拓者がこのように言うのを聞くことができました。「わたしたちが自分の手で作り上げたものを見てください。重機があったわけでも、請負業者がいたわけでもありません。重い石を持ち上げるためにクレーンがあったわけでもありません。わたしたちは自分の力でこの仕事を成し遂げたのです。」

サンピート郡の初期の開拓者は何とすばらしい受け継ぎを残してくれたことでしょう。

かつてロナルド・レーガン合衆国元大統領はこう言いました。「わたしは過去に戻りたくはありません。しかし、将来の課題に立ち向かった際に、過去に取られた方法を振り返りたいと思います。」¹ この勧告に今も共感を覚えます。将来の課題に立ち向かう準備として過去の教訓を振り返ることには大切な意味があります。初期の気高いモルモンの開拓者は、わたしたちがそこに積み上げていける

ように、信仰と勇気と創意工夫というすばらしい遺産を残してくれました。わたしは齢を重ねるごとに彼らをさらに称賛するようになりました。

福音を受け入れてから彼らの生活は一変しました。家や仕事、農場、愛する家族さえも後にして、荒れ野へ旅立ちました。ブリガム・ヤングが「まさにこの地である」²と宣言したときは、ショックを受けたことでしょう。彼らが見たのは広大な砂漠でした。ほとんどの開拓者がかつて知っていた緑の丘、樹木、美しい草原はそこにはありませんでした。しかし、山あいに美しい社会を作り上げるために、開拓者は神と指導者を信じる固い信仰をもって働き始めました。

疲れ切った多くの開拓者が質素ながらも生活の喜びを感じ始めていたとき、ブリガム・ヤングはグレートベースンに集落を築くため、再び家を捨てて四方へ旅立つよう求めました。サンピート郡の共同体であるフェアビュー、エフライム、マンタイ、モロナイ、マウントプレザントはこのようにして築かれました。

サンピート郡から戻ったわたしは同地の開拓者についてもっと知りたくなりました。そこで新しくできた教会歴史図書館で数時間かけて、彼らの歴史を読むことにしました。

ソルトレーク盆地に到着してからわずか2年後の1849年、偉大な西部開拓者ブリガム・ヤングは聖徒の一団に、南部へ行って不毛の地に再び住居と共同体を築くよう求めました。彼らがサンピートに定着して間もなく、ブリガム・ヤング大管長の顧問であったヒーバー・C・キンボール管長がマンタイの町を訪れ、盆地を見下ろす丘の上に東部の山間部から石を運んで神殿を建てることを約束しました。

ヒーバー・C・キンボール管長の訪問から長い年月が過ぎましたが、神殿建設に向けて何の動きもないことに人々は心配し始めました。ある人が「ここには神殿が絶対に必要です。この祝福を待っている時間はもう十分に過ぎました」と言いました。別の人は「神殿を建てたいなら、自分たちで始めよう」と言いました。こうして実行に移されたのです。

隅石が置かれたのは1879年4月14日のことでした。聖徒たちがサンピート盆地に到着してすでに30年もの年月が流れていました。美しい神殿を建てるために最善を尽くした勤勉な人たちの物語が数多く残っています。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は数年前に、マンタイ神殿の再奉獻に当たってこう語りました。

「わたしはこれまで世界中の偉大な建物を訪れてきました。けれども開拓者が建てたこれらの神の宮に入るときに覚える感慨深い気持ちは、ほかでは味わえません。」³ヒンクレー家族にはマンタイ神殿と深いつながりがありました。マージョリー・ヒンクレー姉妹の祖父はマンタイ神殿の建築中に負ったけががもとで亡くなったのです。

将来に立ち向かう最善の方法をどうしたら過去から見いだせるか、この点をよく理解できるように、マンタイ神殿の建築中の出来事を紹介したいと思います。その後、真の原則についてわたしがそこから学んだことを話します。

ノルウェーからマンタイにやって来て定着した人々の中に、大工仕事に熟練した人が何人かいました。彼らは神殿の屋根の建築を任されました。屋根を造ったことはそれまで一度もありませんでしたが、船大工としての経験はありました。彼らには、屋根をどう設計したらよいのか分かりませんでした。やがて一つの考えが浮かびました。「船を造ればどうだろう。立派な船はとても頑丈で、安定している。設計図を逆さまにすれば、しっかりした屋根が造れるだろう。」こうして彼らは船の設計図を描き始め、完成すると逆さまにしました。マンタイ神殿の屋根の設計図はこのようにして完成したのです。

この事例では、彼らは以前の経験から学んだ教訓を生かしました。造船の原理を問題に立ち向かうために役立てたのです。航海に耐える船を造るために用いてきた原理がそのまま、しっかりとした屋根を造るのに応用できるという的確な判断を下しました。例えば、船も屋根も水を通さないようにする必要があります。建造物の基本的な特性が、表側を上にするとか、逆さまにするとかいった使い方によって損なわれることはありません。最も大切なことは、長持ちする構造を作るために必要な基本原理という、役に立つ知識を持っていたことです。

イエス・キリストの福音には船や屋根を造る原理よりもはるかに永続する永遠の原則と真理がぎっしりと詰まっています。主の真の教会の会員であるわたしたちは特に、個人や家族を導いてくれる御霊に耳を傾けるときに、また、全教会員に向けて神の御心を宣言する預言者の声に聞き従うときに、これらの永遠の原則と真理を手にして理解する特権があります。皆さんもわたしも永遠の原則と真理が生活の中でどれほど大切かを知っています。初期の開拓者にこれらの原則と真理がなかったとしたら、危険で先の見えない未来に立ち向かえなかったでしょう。わたしたちも同じです。永遠の原則と真理は、現在のような危険と不安が高まる時代に、未来に立ち向かう唯一まことの永遠の手段です。

ノルウェー出身の船大工は職業上の基本技術を携えてやって来ました。彼らは自分たちの技術を、造船から神殿建築へと置き換えていきました。何が彼らの目指すものを劇的に変えたのでしょうか。あらゆるものを犠牲にして神の王国を建設する理由を説明する答えは一つしかありません。彼らはイエス・キリストの福音の永遠の原則と真理を教わり、受け入れました。そして、建物を築き上げる手伝いをするだけでなく、福音の知識を伝えることによって人を築き上げ教化する力になることも自分たちの使命であることを知っていたのです。教義と聖約第 50 章にはこう記されています。「……説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」(22 節)

イエス・キリストの福音を知るという特別な祝福にあずかり、バプテスマを受けてキリストの御名を受けたとき、わたしたちは福音を分かち合うという義務も引き受けました。福音を宣べ伝えるというわたしたちに共通の責任をもっとよく果

たせるように、教会は最近、伝道プログラムを逆さまにしました。数年前に、ステーク伝道部を解体してワードの伝道組織での働きに努力を集中することにしました。ワード評議会がワードの伝道計画を展開することにより、飛躍的な進歩を遂げています。成果を上げているケースは、専任宣教師がワード評議会、ワード伝道主任、教会員と密接に協力している場合がほとんどです。

ワードを中心とした伝道活動では、求道者を見つけて教えることにかかわる会員が増えていることが分かりました。求道者はしばしば会員の家に招待されて、そこで宣教師からレッスンを受けます。会員は伝道活動のすばらしい祝福をじかに経験するとともに、ワードの指導者から定期的に伝道について思い起こす機会を与えられることにより、イエス・キリストの福音のかけがえのない知識を積極的に人に伝えるようになっていきます。ほかの宗教を信じている友人、隣人、家族と福音を分かち合うことについて深く考え、祈るときに、会員はいつそう深く伝道の業にかかわるようになります。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう教えました。「宣教師の活動とは単にちらしを配ることだと考えている会員が大勢います。しかし、宣教師の活動を知っている人は、もっと良い方法があることを知っています。それは教会員を通じて行う方法です。教会員が求道者を紹介すると、そこには即座に対応できる支援体制があります。教会員はこの業が真実であることを証します。求道者である友達の幸せを心から願っています。そして、友達が福音を学んで進歩するのを見て、感動するのです。」4

専任宣教師は求道者を教える役割のほとんどを引き続き担当しますが、会員にも質問に答えたり、証を述べたりする機会がたくさんあります。わたしたちは福音の基本原則を教える準備をすることによって、預言者の声にもっとよく従うことができます。準備することで恐れを取り除き、容易にまた力強く専任宣教師を支援することができます。専任宣教師は3つの基本となるレッスンを教えます。すなわち、回復、救いの計画、イエス・キリストの福音です。皆さんはこの非常に基本的なレッスンが真実であることについて証する準備がどれほどできているでしょうか。靈感あふれる伝道活動のガイド『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を研究して、基本的な福音のレッスンを教える専任宣教師を支援する準備をしてください。

ノルウェーから来て、マンタイ神殿の屋根を造った船大工が教えた大切な教訓をわたしたちが二つとも学ぶことができますように。第1は過去に学んだ原則と真理を活用して将来に立ち向かうという教訓であり、第2は神の王国の建設を助けるために、知っていることを伝えたいという彼らの望みから学ぶことです。この第2の教訓を学び取ると、兄弟姉妹や神の息子娘など多くの人がわたしたちと同じ永遠の確信をもって不確かな未来に立ち向かうよう助けることができます。イエス・キリストの福音は真実であって、わたしたちの生活を祝福するためこの末日に回復されました。この福音には天の御父の偉大な幸福の計画に含まれるすべての真理、原則、儀式があります。それはわたしたちが御父のみもとへ帰って永遠の王国で御父とともに住むという計画です。イエス・キリストの福音はわた

したちが栄えある未来を迎えるための神の方法であることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

1. ジョージ・F・ウィル, "One Man's America", *Cato Policy Report*, 2008年9月/10月号, 11で引用
2. ウィルフォード・ウッドラフ, "Celebration of Pioneers' Day," *The Utah Pioneers* (1880年), 23で引用
3. "Manti Temple Rededicated," *Ensign*, 1985年8月号, 73で引用
4. ゴードン・B・ヒンクレー「子羊を見いだし, 羊を養う」『リアホナ』1999年7月号, 121-122)